

## 健苗育成で気象変動に負けない稲づくりを！

### 1 今後の天気（1か月予報 4/6 発表）

東北日本海側は気温が「高い」、天気は数日の周期で変わると見込まれています。

### 2 健苗育成のための管理

表1 理想的な稚苗の姿

草丈	11～12cm
第一葉鞘高	3.5cm
葉齢	2.2～2.5枚
根の伸長	根が十分絡んでいる
地上部の姿	葉色は濃く、茎は太く硬く、ずんぐりしている

#### ① 高温やマルチ取り外し遅れによるトラブル回避

出芽までのマルチ内の最適温度は「30～32℃」です。高温時は遮光資材をかけていても温度上昇が抑えられないことがあるため、適切に換気を行きましょう。

また、例年マルチの取り外しが遅れ、苗ヤケ、軟弱徒長苗などのトラブルが発生しています。出芽が揃ったら迷わず直ちにマルチを取り外しましょう。

※「ばか苗病」は高温管理で発病が多くなります。マルチ被覆期間を短くすることで発生リスクを軽減できます。



#### ② マルチ取り外し後の管理

地温・気温が上がる前の朝方に、十分に灌水しましょう。

午後や夕方の灌水は、せっかく温まった地温の低下・過湿を招き、根張りの悪い軟弱徒長苗の原因となります。

また、低温が予想される時は保温資材を活用しましょう。

表2 マルチ取り外し後の温度管理の目安

生育ステージ	昼間	夜間
緑化期(1.0葉期)	25～30℃	15℃
硬化期(1.5葉期～)	15～20℃	8℃以上
移植1週間前～	昼夜ともハウスを開け、外気に慣らす	

#### ③ その他の注意事項

- ・プール育苗では、1.5葉期に床土が隠れる程度に水を入れます（床土が露出していると、好気性のカビによる苗立枯病が発生する恐れがあります。）
- ・苗立枯病、苗立枯細菌病は、主に高温や過湿で発生しやすくなるため、適切な温度、湿度で管理しましょう。
- ・追肥は、稚苗育苗では1.8葉期にN成分で1箱あたり1g施用します。
- ・被覆資材、遮光資材は特性（保温性、遮光性等）をよく確認してから使用しましょう。

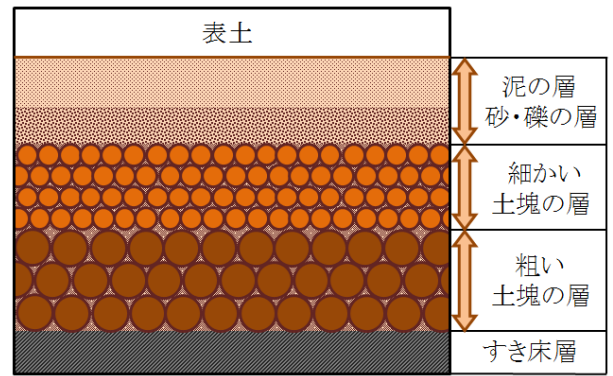
ハウスサイドに防風板を！



### 3 耕起・代かき

- ・地力の高い圃場ほど早めに耕起して乾土効果を発現させ、初期生育を促進しましょう。
- ・**耕深が浅い現状です。耕起の速度は速すぎないようにし、「15cm」を確保しましょう。**
- ・**代かきは土塊を残すように行いましょう。**  
※代かきを何度も、また深く行くと、団粒構造や孔隙が失われます。活着の遅れや田ワキの発生による初期生育不良の原因となります。

図1 理想的な代かき後の土壌



### 4 田植え

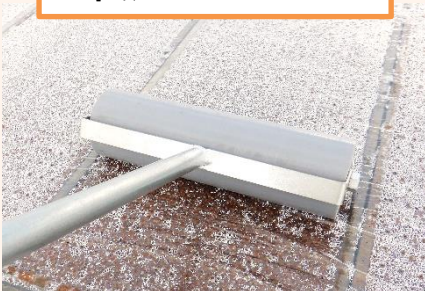
- ・**軟弱徒長苗、老化苗は植え傷みしやすいことから、活着が遅れ、初期分けつの欠損に直接つながりません。**健苗を適期に移植しましょう。
- ・**移植適期は5月10～15日頃(気温が15℃、水温が12～13℃を超えて安定化する)です。**また、低温や強風時は無理をせず、天候の回復を待って好天日に田植えを行いましょう。
- ・**植付深は3cm程度になっていることを必ず確認し、分けつ発生を促進しましょう。**



### 5 農薬の適正使用

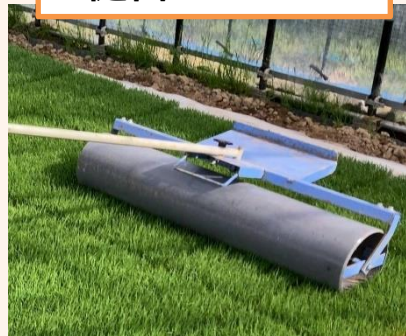
水稻育苗を行った後に野菜等を栽培する予定の育苗ハウス内では、箱施用剤は施用しないでください。置床に残った農薬成分が後作の野菜等に吸収され、適用外成分として検出されることがあります。箱施用剤を施用する場合は、移植直前に圃場で実施してください。

#### 転圧ローラー



水かけでの覆土落としによる地温低下・過湿を防ぎます。

#### 健苗ローラー



・2回目以降は前回と逆の方向に苗を折り曲げます。

#### ローラーの活用を！

苗にストレスをかけることにより、根張りを促進し、茎の太い健苗に育ちます。

- ・使用時期は、1.2葉(マルチはいで数日後)、1.5葉、2.0葉にそれぞれ1回ずつが目安です。

**春季農作業事故防止運動強化期間！ 4/10～6/10**  
**焦らず作業を進め、事故の無いように注意しましょう。**

